

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の予防について

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）については、本年9月末に神奈川県の死亡野鳥（ハヤブサ）からHPAIウイルスが検出されており、この時点で国内にウイルスが侵入していたと考えられます。HPAI発生防止のため、次の点について、十分な対策をお願いします。

### 1. 農場への鳥インフルエンザ（AI）ウイルス侵入防止対策

#### 1) 農場内及び農場周辺の水域の対策

農場周囲に渡り鳥が飛来する水場があると、HPAI発生の可能性が増大します。農場周囲のため池等は、関係者の十分な理解のもと、水を抜くか、防鳥ネットや忌避テープを張る等の対応を実施し、農場に渡り鳥が近付かないようにしてください。

#### 2) 農場への野生動物の侵入防止

昨シーズンは、渡り鳥のみならずキツネやタヌキ等の小型哺乳類からもAIウイルスが検出されています。野生動物が農場に近付くため、鶏の死体は放置せず、密閉容器などで管理してください。また、堆肥舎のカラス糞便からもAIウイルスが検出されているので、堆肥舎への防鳥ネット設置等の対策も確実に行ってください。

### 2. 家きん舎へのAIウイルス侵入防止対策

#### 1) 家きん舎内用の長靴への履き替え、手指消毒・手袋の交換

AIウイルスは家きん舎周囲に常に存在し、家きん舎外で使用した長靴や手指にはAIウイルスが付着していると考えて、家きん舎への立入時には必ず家きん舎専用の長靴への履き替え、手指消毒及び手袋の交換を行ってください。また、出入口で交差汚染が無いよう、十分に気を付けてください。

#### 2) 家きん舎へのネズミ・野鳥等の野生動物の侵入防止のための修繕

家きん舎周囲のAIウイルスがネズミ、野鳥等によって持ち込まれることを防ぐため、頻繁に家きん舎の破損等を点検、修繕してください。換気口等の開口部は、確実に閉鎖できるパネルや細かい金網等（網目のサイズを2cm以下）を設置してください。

豚熱については、国内では平成30年9月以降、17県で84事例発生し、35万頭以上の豚が殺処分されています。野生イノシシの確認地域も広がっており、本年7月には徳島県、9月には高知県でも野生イノシシの感染が確認されています。最近の養豚場での発生事例が示すとおり、その多くは①野生イノシシで豚熱陽性が確認される地域のワクチン接種農場であり、②ワクチン接種前や直後の離乳豚舎等の子豚で発生が確認されています。ワクチンを接種していても、100%の豚に十分な免疫を付けることは不可能です。このため、豚熱の発生を防ぐには飼養衛生管理基準の遵守が重要です。四国内ですでに野生イノシシの豚熱陽性が確認されていることから、養豚場の外には既に豚熱ウイルスがきていると考えてください。さらに豚舎の外、農場の衛生管理区域内にも豚熱ウイルスがいると考え、豚舎間の移動時に豚を歩かせる場合は、豚が歩く場所を土がつかないように舗装するかゴム板等を設置し、十分に消毒してから移動させてください。一輪車のタイヤ等も、毎回確実に消毒してから豚舎に入れてください。また、各豚舎に入る際には専用作業服への着替えや靴の履き替えを確実にするとともに、出入口での交差汚染の防止に注意してください。特にワクチン接種前や直後の子豚のいる離乳豚舎等には、より一層の豚熱ウイルスの侵入防止対策を実施してください。

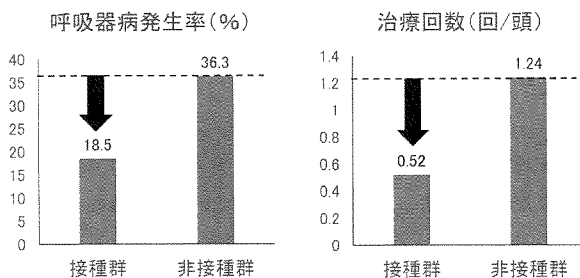
## 肥育牛への牛呼吸器病ワクチン接種で産肉性向上！ ～(株)微生物化学研究所 岡章生先生講演 養牛研修会より～

肥育牛における死廃事故は呼吸器病が最も多くを占めており、食肉市場でと畜された肉用牛の疾病発生率も、呼吸器病が肝臓疾患に次いで多いそうです（H29年度東京市場）。

兵庫県のある肥育農場（黒毛和種去勢肥育牛109頭）で、導入直後と18ヶ月齢時に呼吸器病ワクチン（6種混合）を接種した群（54頭）と未接種群（55頭）とで呼吸器病発生率や枝肉成績について調査したところ、ワクチン接種群は呼吸器病の発生率や治療回数が図のとおり有意に減少し、さらに枝肉成績も表のとおりロース芯や歩留基準値、歩留まり等級A率が有意に向上しました。

育成期にワクチンを接種していても、半年以上経過すると抗体は低下します。特に呼吸器病発生が多い肥育農場は、追加のワクチン接種をご検討ください。

呼吸器病に対するワクチン接種の効果(図)



枝肉成績に対するワクチン接種の効果(表)

項目	接種群	非接種群
枝肉重量(kg)	409.8	410.6
脂肪交雑(BMS No.)	7.4	7.1
ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	54.5	51.9
バラ厚(cm)	6.9	6.9
皮下脂肪厚(cm)	2.8	2.6
歩留基準値(%)	73.8	73.3
歩留等級A率(%)	96.3	87.3

## アフリカ豚熱(African swine fever: ASF)について (第63回全国家畜保健衛生業績発表会より)

アフリカ豚熱(ASF)は、アフリカ豚熱ウイルス(ASFV)感染による豚及びイノシシの熱性伝染病で、突然の高熱、元気消失及び食欲不振により、致死率はほぼ100%になります。また、ASFVは適度なたんぱく質濃度が保たれた環境(血液中など)では長期間安定し、冷蔵肉中で少なくとも15週間、非加熱のハムやソーセージでは3～6か月間生存し感染力を保持しています。

ASFは元来アフリカで常在する疾病でしたが、2007年に東ヨーロッパのジョージアで突如発生しました。この際のASFVの侵入経路は、アフリカからの船舶内で提供されたASFVで汚染された豚肉及び豚肉製品の残渣を豚へ給与したからだと考えられています。

アジアでは2018年から中国を初発として、2019年にはモンゴル、ベトナム、ラオス、北朝鮮、韓国と続き、現在もアジア全土に感染は広がり続けています。

日本ではまだASFの発生報告はありませんが、日本へ入国する外国人が持ち込もうとして空港で回収された豚肉製品(検査証明書のない肉製品の海外からの持込みは禁止されています)からASFVが複数回分離されており、すでに日本の水際までやっています。

外国人実習生等のいる農場では、入国時は肉製品を持ち込まない事や家族等に国際郵便で肉製品を送らないよう伝えるなどの周知をお願いします。ASFVが日本に侵入した際に備えて、農場の飼養衛生管理基準の再確認をお願いします。

## ネズミの生態と鶏舎における防除法について (鶏疾病特殊講習会から)

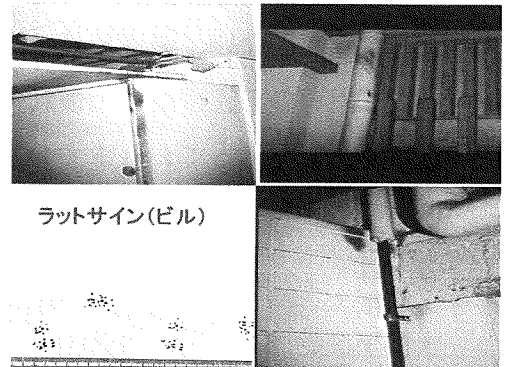
本講習会でネズミの生態と鶏舎における防除法について、講義があったので紹介します。

鶏舎でのネズミの存在は、飼料の盗食だけでなく、感染症の媒介者として鳥インフルエンザやサルモネラ症などを媒介する可能性があります。ネズミは、多産であり、理論上1組のペアから年9,400匹、3年で3億5000万匹もの繁殖力を持つため、効果的な対策を継続して実施することが必要です。

防除策は殺鼠剤や忌避剤による化学的対策、トラップ等による物理的対策、3S（整理・整頓・清掃）とネズミの通路の遮断による環境的対策を組み合わせる行うことが重要です。

ネズミは警戒心が強く、安全が確認された場所を繰り返し通る習性があります。その場所には、体の油分やホコリ等がこびりついた【ラットサイン】が確認されるので、そこに粘着トラップや殺鼠剤を配置すると効果的です。また、数カ所の餌場で採食する習性があることから、殺鼠剤は一カ所だけでなく、数カ所に分散して設置するとより効果的です。さらに、こぼれ餌を定期的に清掃し、清潔な環境にすることでネズミにストレスを与えることができ、トラップや殺鼠剤の効果を上げることができます。

環境的対策はコストをかけずに実施が可能であり、化学的・物理的対策の効果を上げるためにも重要な対策です。飼養衛生管理基準においてもネズミの対策が定められていますので、ネットや金網で侵入を防ぎ、営巣場所、隠れ場所をなくして、ネズミが生息しにくい環境を作りましょう。



ラットサイン(写真:(公社)日本ペストコントロール協会谷川力氏提供)

## 肉牛の部で香川県代表牛が躍進！—第12回全国和牛能力共進会の受賞報告—

令和4年10月6日から10日にかけて、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催されました。香川県代表牛は、第3区（若雌の2）に1頭及び第8区（去勢肥育牛）に2頭出品されました。受賞結果は、第3区に出品した塩田薫氏（善通寺市）のちゃれんじ号が2等賞。第8区に出品した間島真司氏（さぬき市）の舞向日葵4700号が優等賞14席、安藤勝賛氏（三豊市）の向日葵4698号が1等賞でした。特に、間島真司氏の舞向日葵4700号のMUF A割合は、64.3%と第8区の中では上位3位となりました。



第3区 塩田薫氏  
2等賞



第8区 間島真司氏  
優等賞14席



第8区 安藤勝賛氏  
1等賞

ちゃれんじ号(19ヶ月齢) 父:福増 母の父:茂洋			
体高	体長	胸囲	尻長
130.0 cm	152.6 cm	180 cm	54.0 cm

舞向日葵4700号(23ヶ月齢) 父:舞菊福 母の父:勝早桜5			
枝重(kg)	格付等級	BMSNo.	MUFA(%)
447.0	A5	11	64.3

向日葵4698号(23ヶ月齢) 父:福之姫 母の父:安福久			
枝重(kg)	格付等級	BMSNo.	MUFA(%)
509.1	A5	12	56.7

# 新人だより

はじめまして。令和4年4月より東部家畜保健衛生所に配属となりました寺嶋昌宏（てらじま まさひろ）と申します。出身は丸亀市で、宮崎大学に進学しました。ゆったりとした自然の中でドライブがてら九州各地の温泉巡りをしたり、モータースポーツに没頭していたのは懐かしい思い出です。

新人だよりに掲載させていただいていますが、実は生後半世紀をすぎたおっさんです。異動前は食肉衛生検査所だと畜検査に従事したり、保健所で食品衛生等を担当していました。また、古い話になりますが、大学卒業後は家畜の診療に従事していたこともあり、以前より畜産関係の仕事に従事したいと思っていました。

今回、希望がかない、畜産現場に近い業務に携わることになりましたが、未経験なことも多く、周りの方々のご指導の下、少しずつ慣れてきているところです。香川県の畜産業の発展に貢献できるように励んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

疾病情報

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨ一ネ病(法定)	牛	鳥取県、山口県、徳島県	R4.6月	3	3
牛ウイルス性下痢(届出) (旧:牛ウイルス性下痢・粘膜病)	牛	兵庫県	R4.5月	1	1
牛伝染性リンパ腫(届出) (旧:牛白血病)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県 島根県、山口県、愛媛県、徳島県 高知県、香川県	R4.5月～R4.8月	126	162
牛伝染性鼻気管炎(届出)	牛	岡山県	R4.7月	1	2
牛丘疹性口炎	牛	兵庫県	R4.8月	1	1
破傷風(届出)	牛	島根県、山口県、愛媛県	R4.5月、R4.7月～R4.8月	5	6
ネオスポラ症	牛	岡山県	R4.8月	1	1
サルモネラ症(届出)	牛	鳥取県	R4.6月～R4.7月	3	5
サルモネラ症(届出)	豚	徳島県	R4.7月	1	3
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、広島県、鳥取県、島根県 愛媛県、徳島県、高知県、香川県	R4.5月～R4.8月	22	38
マレック病(届出)	鶏	兵庫県、山口県	R4.6月	1	1
ロイコチトゾーン病(届出)	鶏	高知県	R4.8月	1	1
鶏伝染性気管支炎(届出)	鶏	徳島県	R4.7月	1	14
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	岡山県、広島県、愛媛県、高知県	R4.5月～R4.7月	4	4